令和４年度　地区小・中学校教育課程研究会　提案資料

総則部会

令和４年度神奈川県小・中学校教育課程研究会研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実

テーマ

学び合い、かわり合いを軸としたカリキュラム・マネジメントの研究
～PDCA サイクルの具現化を目指して～

地区名　　県央地区
所属校　座間市立相武台東小学校
名　前　浦井　美砂

※児童の写真、ノート等の記述及び作品等については、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。

目　次

Ⅰ．はじめに
1.　本校概要
2.　本校の校内研究
3.　学校経営方針「学校グランドデザイン」

Ⅱ．研究テーマについて
1.　学習指導要領との関連

2.　研究テーマと研究テーマ設定の経緯

Ⅲ．研究内容
1.　研究仮説

2.　実践

Ⅳ．研究のまとめ
1.　研究の成果
①児童のアンケート結果から
②その他

2.　今後の課題

参考資料　教科等年間計画一覧表（最後に全学年分載せてあります）

Ⅰ　はじめに

１　本校概要

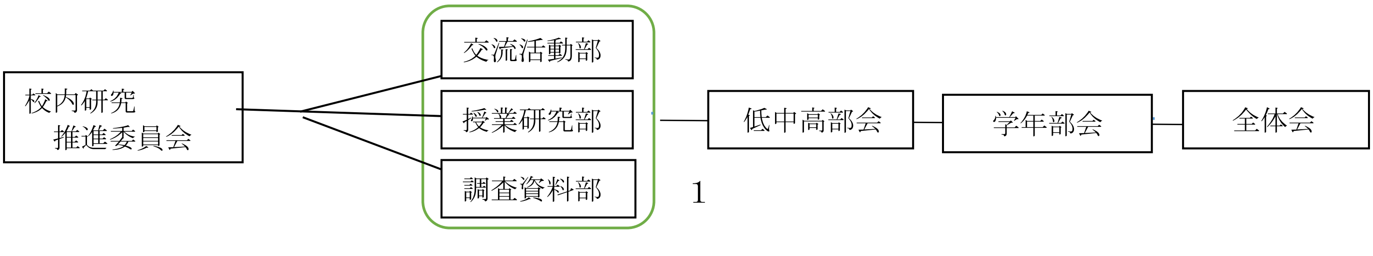
相武台東小学校は、座間市の中では４番目の規模（児童数）を誇り、全校児童は、６００人を超え、特別支援級を含めたクラス数は２１、職員数は５０名を超える。座間市４番目にできた小学校であり、昨年度（令和３年度）で創立５２周年を迎えた。学区には相武台前駅がある。駅前には商店街や飲食店などが多くあり、交通量も多い地域である。その中でも相武台南口商店会は、１９８１年に設立し、２００４年頃から相武台東小学校との関係が深まっていった商店街である。また、校庭裏には、畑が広がり、草木の生い茂る森もある。本校がひまわり交流を行っているひまわり畑・特別支援級児童が秋になると芋掘りをするサツマイモ畑もある。さらに、マンションも多く、住宅地が広がっているが、古くからある工場も存在し、地域学習をするための素材に恵まれた地域である。このような地域の特色を生かし、さまざまな地域学習が行われてきた歴史がある。

２．本校の校内研究

「心豊かに生き生きと活動する子を目指して
～書くことを通して考え、学び合う授業づくり～」

本校は、「心豊かに生き生きと活動する子を目指して」を研究主題とし、平成 29 年度より全教科・全領域を通して「学び合いを通して、みんなとわかる」ことをねらいとし、さまざまな取り組みに挑戦してきた。昨年度から、「学び合う」研究からさらに、基本的な学力をしっかり定着させるために、子どもたちの実態を把握し、書く力の育成に力を入れて、日々実践をしている。また、国語で学んだ「書くこと」を他教科と関連づけて指導することを意識し、「書く」ことを中心にすえ、「みんなと学ぶ」授業づくりを目指し研究を進めている。

また、研究組織は、校内研究推進委員会を中心として、「交流活動部」「授業研究部」「調査資料部」の３つの専門部を立ち上げている。交流活動部では、異学年交流の推進や交流記録の校内掲示、授業研究部では、研究授業の分析・指導案検討・校内統一した掲示物の作成、調査研究部では、授業や協議会の記録・児童アンケートの実施と考察等の取り組みを行っている。



3　本校グランドデザイン

教職員用

令和3年度　**学 校 経 営 方 針**　座間市立相武台東小学校

座間市教育大綱より
○基本理念
　座間市で育ち座間市を愛する人づくり
○基本目標
　（1）未来を拓く座間っ子づくり
　（2）生涯にわたり健やかで活気あふれる人づくり
豊 か な 心 を 育 む ひ ま わ り プ ラ ン

かながわ教育ビジョン
○思いやる力
○たくましく生きる力
○社会とかかわる力
→ 自己肯定感

創立52年目新たな歴史の始まりです！

《学　校　教　育　目　標》

自ら考え行動する、たくましく心豊かな児童の育成

《 教 育 理 念 》

未来を幸せに生きる力を育む教育の推進
―いのち・自立・共生―

めざす児童像
○心豊かな子【心を育む】
　思いやりがあり、助け合える子
　積極的にあいさつできる子
○自ら学ぶ子【学びをつくる】
　進んで学び、問題解決を図る子
○たくましく生きる子【健康・いのちを守る】
　いのちや健康を大切にする子
　進んで挑戦する子、最後までやりぬく子

めざす教職員像
○チーム相東小として、組織的に物事に対応する【協育】
○児童理解に努め、一人ひとりの児童や保護者に寄り添う
○課題には丁寧・迅速・継続的に取り組む
○「率先垂範」児童とともに学び、成長し続ける【共育】
○教育公務員としての自覚・誇り・責任を保持する【鏡育】
○心身ともに健康で主体的に取り組み、同僚性を高める

《重点目標》

自らの考えを持ち、学びあうことをとおして、
みんなで成長できる児童の育成

指　導　の　重　点

学びをつくる（A／Dグループ）
○確かな学力の育成
・基礎的基本的な知識・技能
・思考力・判断力・表現力等
・主体的に学習する力
○学びの実感がある授業づくり
・どの子も「わかった」「できた」を感じる楽しい授業
○考えを持ち、学びあう学習の重視
・自分の考えを持ち、
　自分の言葉で説明できる力
　思いや考えを書く力
○グローバル教育・ICT活用の推進
○家庭学習習慣の確立

心を育む（Bグループ）
○豊かな心の育成
・自他共の命を大切にする心
・感謝する心
・平和を愛する心
・郷土やまちを大切にする心
○規範意識の育成
・決まりや約束
・公徳心・公共心
○基本的な生活習慣の確立
・挨拶・返事・言葉づかい・礼儀
○コミュニケーション力・協働する力の育成
○自己有用感の育成
・学級での役割　・異学年や地域との交流

健康・いのちを守る（Cグループ）
○健やかな体の育成
・早寝・早起き・朝ご飯
・体力づくり
・運動の楽しさ
○いのちや健康への意識を高める
・保健教育
・食育
○環境衛生美化への意識を高める
・快適な生活環境
○安全意識の育成
・交通安全
・防犯・防災

具　体　的　な　取　り　組　み　～PDCAサイクルのもと～

○授業改善（校内研究・研修の充実）
「心豊かに生き生きと活動する子を目指して」
　～学びあいを通して、みんなとわかる～
・**言語活動の充実を図り教科の目標に迫る**
・学力学習状況調査の活用
・授業で心を育てる
・指導と評価の一体化
　学びあい学習の充実
○指導法改善
・支援教育
・少人数・TT　他
・**ICTの効果的活用**
○キャリア教育
○グローバル教育
○特色ある教育活動
・地域連携活動
・こころ ときめき活動
・異学年交流
○体験学習の充実
○学習環境整備

○座間市豊かな心ひまわりプランに沿って
・ざまっ子八つの誓い
○全教育活動に渡る道徳教育の充実
・全体計画・学年指導計画に沿って
・**「郷土の先人に学ぶ」**等の活用
○人権教育
・いのちを大切にする心を育む教育の推進
○個に応じた支援教育
・特別支援教育
・QUの活用・児童指導研修
・他機関との連携
・教育相談・ケース会議

○実践的な健康教育の推進
・学校保健委員会
・体力測定の活用
・体力・運動能力の向上
・食育　・保健(コロナ感染防止対策）
○いのちを守る安全教育
・安全教育計画
・避難訓練　安全教室　他
・防災計画
○環境整備
・環境衛生 ・美化清掃
○働き方改革

家 庭 ・ 地 域 ・ 他 機 関 と の 連 携　　開 か れ た 学 校

○学校支援組織との連携
・PTA
・おはなし会
・ひまわり教室
・ボランティア
○外部講師・人材の登用

○学校公開
・情報の発信
　各種たより
　ホームページの充実・活用
　メール配信
○学校評価の活用

・コミコミスクール
・授業参観
・保護者会
○学校評議員会

○外部団体との連携
・幼保中との連携
・自治会・商店会
・民生委員・青少健
・座間中学校区地域交流会
・行政・専門機関

Ⅱ　研究テーマについて

1　学習指導要領との関連

平成２９年度に告示された学習指導要領の第１章総則では、カリキュラム・マネジメントについて下記の通りに記されている。

> 総則
> 第１　小学校教育の基本と教育課程の役割
> ４．各学校においては，児童や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

（※下線は、浦井が加筆）

また、カリキュラムマネジメントについては、文部科学省の「学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策」に下記のように３つの側面について記されている。

> 「カリキュラムマネジメント」については、これまで、教育課程の在り方を不断に見直すという下記２の側面から重視されてきているところであるが、「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子供たちに必要な資質・能力を育成するという新しい学習指導要領等の理念を踏まえ、これからの「カリキュラム・マネジメント」については、以下の三つの側面から捉えられる。
> １．各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
> ２．教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
> ３．教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

（※下線は、浦井が加筆）

さらに、学習指導要領、第１章総則の第２節教育課程の編成においては、次にように記されている。

> 各学校の教育目標と教育課程の編成
> 教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成する目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第５章総合的な学習の時間の第２の１に基づき定められる目標との関連を図るものとする

（※下線は、浦井が加筆）

「総合的な学習の時間」の目標については、学校の教育目標との関連を図り、児童や学校、地域の実態に応じてふさわしい探求課題を設定することができるという「総合的な学習の時間」の特質が学校教育目標の実現に生かされるようにしていくことが重要であると総則解説に記されている。

2　研究テーマとテーマ設定の経緯

テーマ

学び合い・かかわり合いを軸としたカリキュラム・マネジメントの研究
～PDCA サイクルの具現化を目指して～

昨年度から、本校の教務となった私は、まず、本校の教育活動の特徴を相武台東小学校 50 周記念誌（令和 2 年 2 月発行）から知ろうと試みた。すると、次のようなことが分かってきた。

一つは、本校学区にある相武台南口商店会と地域の子どもたちとの交流を通して商店会の活性化を目指す取組が 15 年ほど前から行われてきたことである。ちょうど、商店会が活性化を目指す取組を模索していた時期と、本校が地域性を生かし子どもたちの心を育む取り組みを模索していた時期が重なり、２００４年に商店会に「子どもたちの視野を広げてほしい」と職業講話を依頼したのがきっかけであった。

二つ目は、１５年ほど前から始まった、「ひまわり活動」である。職業講話をしてくださった地域の方が、座間の花ひまわりの種を使った製品を開発した話をしてくださった。その後、子どもたちのアイデアをもとに、ひまわりから新しい物（ひまわりクッキー・ひまわりキャンディーなど）をつくってきた。数年前は、茎からとった繊維を加えた和紙をつくり、その和紙で座間の名物である凧の製作を行っている。感染症が広がる前は、座間産の新種のひまわりを開発しようと東京農業大学教授に協力を依頼し、チャレンジしていた。

三つ目は、職業体験・町探検である。相武台地域には、肉屋や花屋・パン屋などの専門店、スーパーマーケットやコンビニ、会社、保育園や幼稚園、農家、牧場や乗馬クラブなどさまざまな本物の社会体験ができる環境があり、地域においてさまざまな仕事を見学することができる。職業講話をきっかけに、子どもたちの地域への思いが生まれ、商店会協力のもと「職業体験」がはじまっている。

和紙作り

町探検

職業体験

座間市立相武台東小学校５０周年記念誌「燦燦」より一部抜粋

このように、本校では、長年、地域性を生かし、人とのかかわり合いの中で子どもたちを育む試みが行われてきた。そして、「総合的な学習の時間」や「生活科」などにおいて、この地域性を生かした学習内容が引き継がれてきた。

また、本校は「心豊かに生き生きと活動する子を目指して」を研究主題とし、平成 29 年度から学び合いを軸として研究を行っている。そして、今年度は～書くことを通して考え、学び合う授業づくり～をサブテーマに研究を進めることになった。

これらを考えると、本校は学び合い・かかわり合いを大切にし、長年教育活動を行ってきたことがわかる。そこで、まず、今年度は、今まで盛んに行われてきた地域とのかかわり合いを工夫して行っていきたいと考えた。なぜなら、私の教員経験から、地域や社会とのかかわり合いのなかで、子どもたちの主体性・社会性・協調性などが育まれると考えたからである。

次に、校内研究において、国語で学んだ「書くこと」を他教科と関連づけて指導することを意識し、「書く」ことを中心にすえ、「みんなと学ぶ」授業づくりを目指し研究を進めていることから、カリキュラム・マネジメントの視点で、校内研究に関わっていきたいと考えた。なぜなら、感染症の広がりの中、子ども同士のかかわり合いが減り、学び合う機会が減っていると感じていたからである。子ども同士がかかわり合い、学び合うことは、子どもたちの主体性つまり自ら考え行動する力を伸ばすことにつながると考

える。
　これらを踏まえ、学び合い・かかわり合いを軸にしたカリキュラム・マネジメントに取り組んでいきたいと考えた。
　しかし、ここ数年、感染症の広がりだけではなく、社会状況は日々変化し、学習環境の変化もめまぐるしい。また、年度によって子どもたちの実態にも変化がある。そのため、これからは、このような変化に対応できるようその都度カリキュラムを見直し、流動的に計画を作成し直していくことが大切であると考えた。そのためには、さまざまな状況に対応しながら、カリキュラム・マネジメントができるよう、Ｐ（計画）Ｄ（実践）Ｃ（評価）Ａ（改善）サイクルの実現が大事であると考え、このテーマで研究することにした。

Ⅲ　研究内容

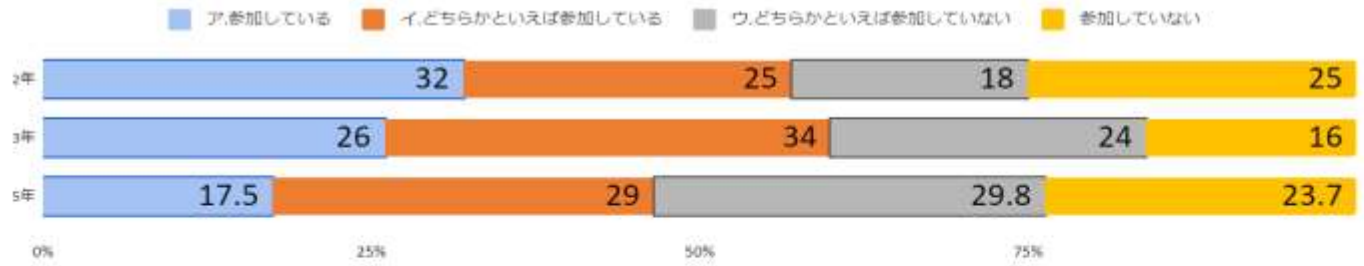
１．研究仮説

　PDCA サイクルを実現すると、学び合いやかかわり合いを大切にしたカリキュラムを作成することができるだろう。

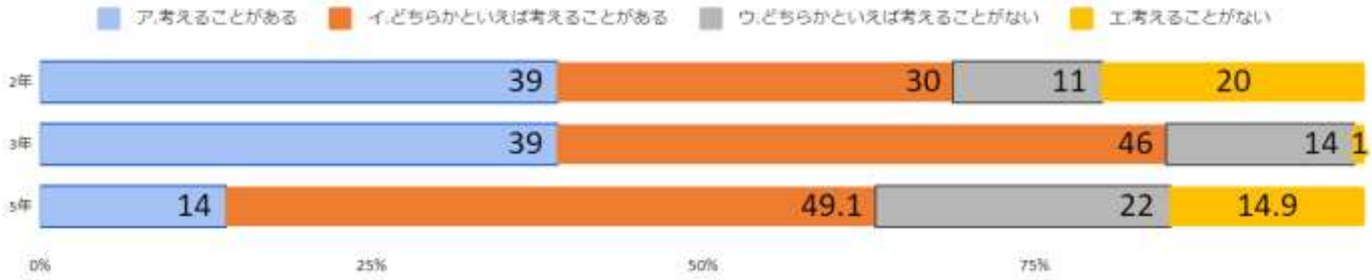
　【研究仮説の設定の理由】

地域・社会とのかかわりあいを生かしたカリキュラムの作成
次のグラフは、１学期末に２、３、５年生に向けて行った児童アンケートの結果である。

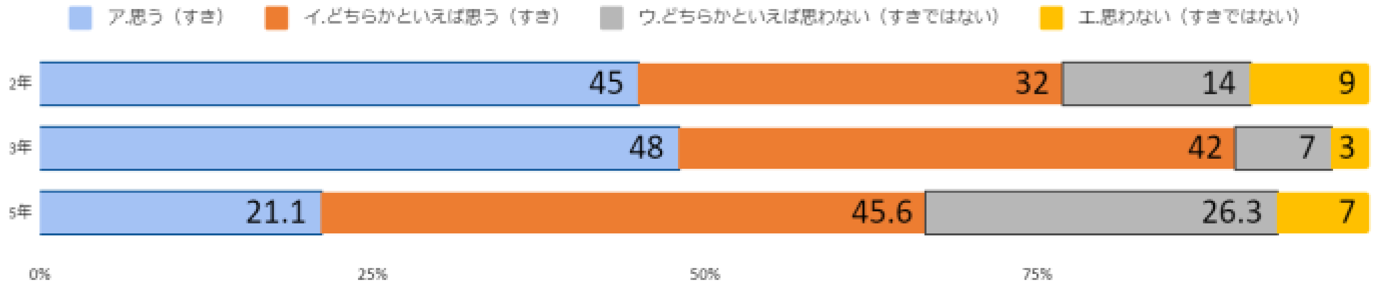
１．あなたは、今住んでいる地域の行事に参加していますか。



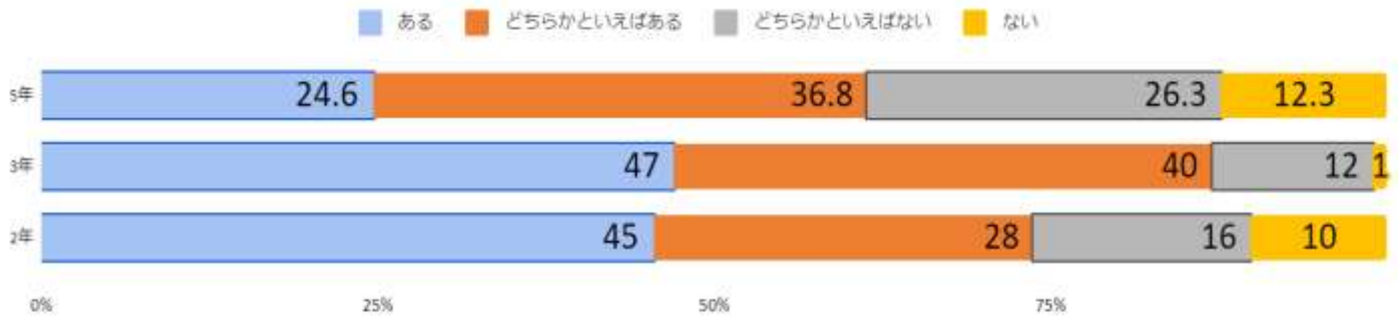
２．あなたは、地域や社会をよくするために何をしたらよいかを考えることはありますか。



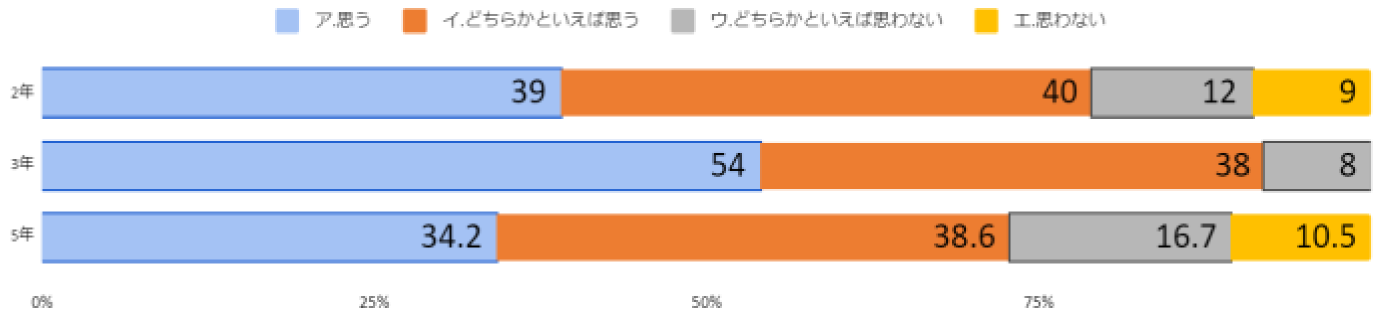
３．あなたは、地域の人から話を聞いたり、関わったりする学習を進んで行おうと思いますか。
（学習は好きですか）



4．あなたは、地域の人から話を聞いたり、関わったりする学習を通して、できるようになった、わかるようになったということはありますか。



5．あなたは、地域の人から話を聞いたり、かかわったりする学習を行うと自分の考えが広がったり、よりよくなったりすると思いますか。



児童アンケートから、令和２年度全く地域とかかわる学習ができなかったにもかかわらず、地域学習を概ね肯定的に捉え、成果があると感じている児童が多いということが分かった。特に、１学期に社会や総合的な学習の時間で地域学習を取り入れる機会が多かった３年生において、地域学習を行うことで、学習理解や考えの広がりや深まりに効果があると感じている児童が多いということも分かった。また、地域学習を多く取り入れた３年生において、「地域社会をよりよくしたい」という考えを持つ児童が多いという結果になった。そして、どの学年も、５の質問「あなたは、地域の人から話を聞いたり、関わったりする学習を行うと自分の考えが広がったり、よりよくなったりすると思いますか」という質問項目において「思う、どちらかといえば思う」と答えた児童が多かったことから、地域の人と関わることで、考えが広がったり深まったりすると今までの経験上、感じている児童が多いということも分かった。

このような児童アンケートの結果から、やはり、児童の地域・社会への思いを育み、主体的に学習する力や考えの広がりや深まりをもたせるために、地域・社会と連携した学習の必要性がわかった。

しかし、変化の多い社会状況の中、どのように地域・社会と連携した学習を進めるか、また、児童の自ら考え、主体的に活動できる力を育むために地域・連携した学習を進めるにはどのようにしたらよいか、を考えるのはとても難しい。

そこで、まずは、今の地域・社会状況に合わせ計画（Ｐｌａｎ）し、そのときの地域・社会状況に合わせて実践（Ｄｏ）し、何が身についたか評価（Ｃｈｅｃｋ）し、年度途中で、計画していたものがその時期にできるか、計画していた学習において身につけたい力は何かを考え授業改善・計画改善（Ａｃｔｉｏｎ）を行うというＰＤＣＡサイクルが必要であると考えた。この変化のある難しい社会状況の中、先生方がこのようなＰＤＣＡサイクルを行いやすくする方法を提供すれば、よりよい実現可能なカリキュラムが作成できるのではないかと考えた。

校内研究とつながり「書くことを通して、学び合う」ことができるカリキュラムの作成

本校は、平成 29 年度・30 年度の校内研究において、「学び合いを通してみんなとわかる」を目指して、研究に取り組んだ。その研究課題として、自ら考えをなかなか持つことができない児童への支援の難しさや自分の考えを伝えることに苦手意識を持っている児童への手立てについて研究を深める必要性がでてきた。そこで、本校は、学び合いを通して、あたたかな人間関係や心豊かに生き生きと活動する児童を育むと同時に、基本的な学力の定着を図りたいと考えた。そこで、現在の校内研究は、「書くことを通して、学び合う授業作り」を目指し、国語科を中心とし、書く力の育成に力を入れて取り組んでいる。子どもたちが、お互いの思いや考えを受け止め合って学び合うことで、個々の考えに広がりや深まりが生まれると考えている。

また、さまざまな教科、特に総合的な学習の時間や生活科で体験し、獲得した情報を作文や新聞などに書き表し言語化することは、知識として定着させることにつながる。そして、書くことは、思考を伴う作業であるため、思考力や表現力等の資質・能力を育むには、言語によりまとめたり、分析したりすることを体験活動とつないで問題解決や探究活動のプロセスに位置づけることが大切となる。また、他者とかかわり合う（学び合う）場やふり返りの場も必要である。なぜなら、他者とかかわり合う（学び合う）ことで、自分の考えを言語化して表現し、獲得した知識をより確かなものにできるからである。また、書くことで、既有の知識と獲得した知識を結びつけ、自分の考えとして整理し意味づけることができる。さらに、自分のこのような学びに対する自己有用感や自己有能感は、次の学習への学びに向かう力に結びついてくる。

（参考「カリキュラムマネジメント入門」田村 学）

そして、今までの私の教員経験からも、体験・経験して学んだことを他者に伝えたい・教えたいという思いが原動力となり、書くことに意欲的に取り組む児童の姿はさまざまな場面で見られた。

さらに、本校の校内研究スーパーバイザーの中村教授の講義から、国語科で学んだ書く技能・知識を他教科と関連づけることで書く力が確かなものになっていくと感じた。なぜなら、国語科で学んだ知識を活用することで、自分の考えがよりよく他者に伝わることを実感することができるからである。この実感は、もっとよりよく書くことができるようになりたいという学びに向かう力につながると考える。

このようなことから、書く単元（主に国語）と他教科を横断的につなげることで、書くことを通して学び合うカリキュラムの作成ができるのではないかと考えた。それには、書く単元（主に国語）と他教科とのつながりを考えながら、単元の配置などを計画（Ｐｌａｎ）し、学び合いを考えた授業を実践（Ｄｏ）し、何が身についたか評価（Ｃｈｅｃｋ）し、さらに効果的な学びにつながるよう授業改善・計画改善（Ａｃｔｉｏｎ）を行うというＰＤＣＡサイクルが必要であると考えた。

２．実践

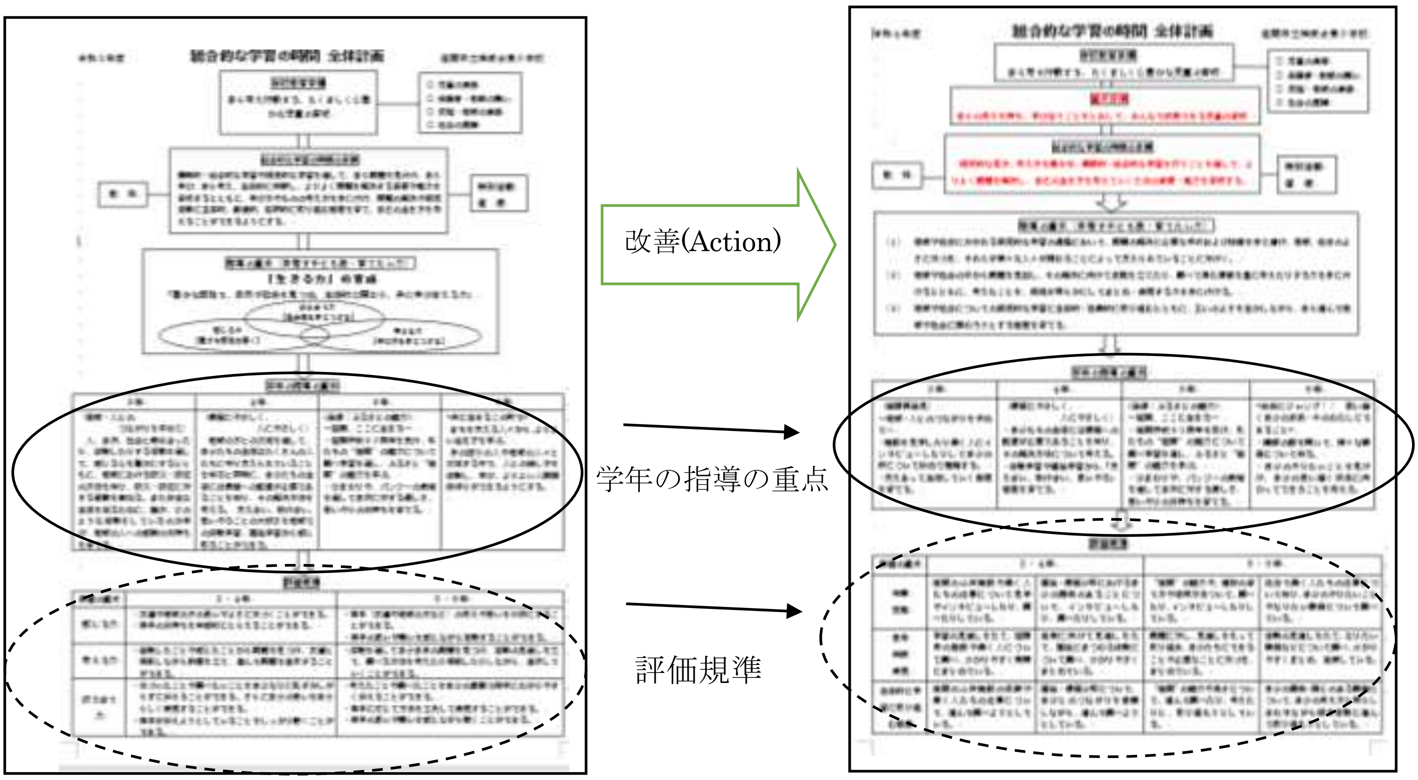
【具現化に向けた取り組み】

①	**総合的な学習の時間全体計画・年間計画の見直し**	学習指導要領に基づき、地域性を生かした計画を立てるため。
②	学期末毎の児童アンケート作成・分析	児童の実態・思い願いからカリキュラムを作成するため。
③	教科年間計画を一覧できる表の作成※	教科間・単元間・行事と教科間・地域学習と教科間をつなぐため。
④	教科等年間計画一覧表の見直し	地域社会状況・児童の実態・児童の思いや願いの変化に対応する効果的なカリキュラムの作成のため。

※以後「教科等年間計画一覧表」と表記

① 総合的な学習の時間全体計画・年間計画の見直し

ア）「総合的な学習の時間　全体計画」の見直し・改善



◎学年の指導の重点◎

改善(Action)

資質・能力の育成を意識　　　　**主体的・協働的な取り組み、社会・実態に合った活動へ**

３年	４年	５年	６年
〈座間再発見〉 ～地域・人との つながりを求めて～ ・施設を見学したり、働く人にインタビューしたりして自分の市について改めて理解する。 ・支えあって生活していく態度を育てる。	〈環境にやさしく、 人にやさしく〉 ・自分たちの生活には環境への配慮が必要であることを知り、その解決方法について考える。 ・体験活動や福祉学習から、「支えあい、助け合い、思いやる」態度を育てる。	〈発信！ふるさとの魅力〉 ～座間、ここに生きる～ ・座間市制５０周年を受け、私たちの“座間”の魅力について調べ学習を通し、ふるさと“座間”の魅力を学ぶ。 ・ひまわりや、パンジーの栽培を通して自然に対する優しさ、思いやりの気持ちを育てる。	〈未来にジャンプ！！思い描く自分の未来・今のわたしにできること〉 ・講師の話を聞いて、さまざまな職業について知る。 ・自分のやりたいことを見付け、自分の思い描く将来に向かってできることを考える。

◎評価規準◎

改善(Action)

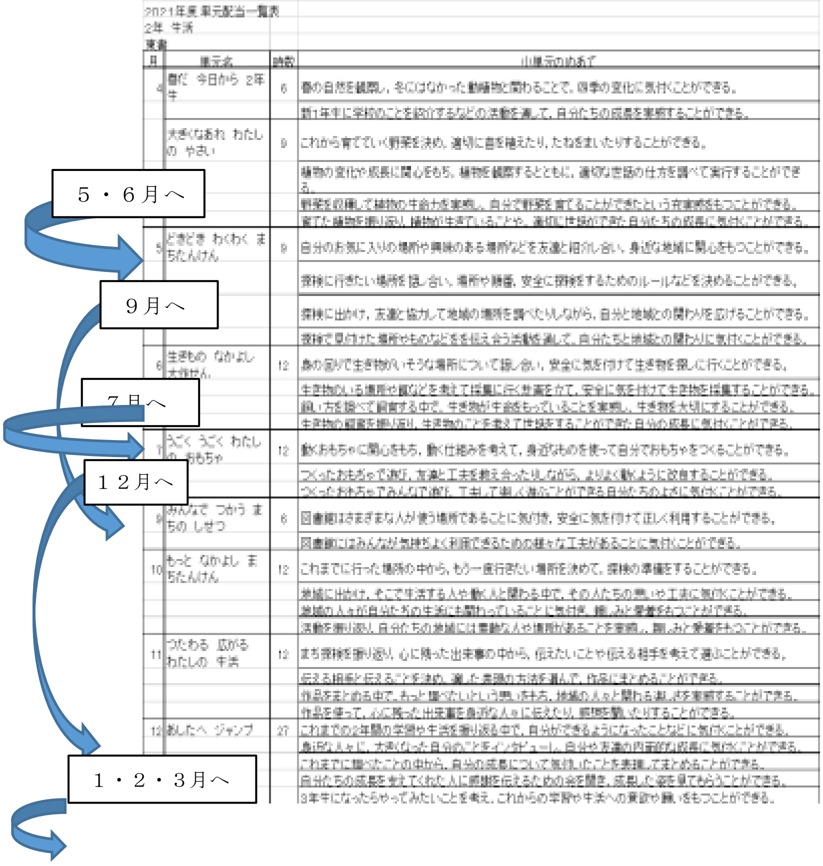
学習指導要領に基づき、指導と評価の一体化を目指した評価へ

評価の観点	３年	４年	５年	６年
知識 技能	座間の公共施設や働く人たちの仕事について見学やインタビューしたり、調べたりしている。	福祉・環境分野における自分の興味のあることについて、インタビューしたり、調べたりしている。	“座間”の魅力や、植物の育て方や活用方法について、調べたり、インタビューしたりしている。	社会で働く人たちの仕事について知り、自分のやりたいことやなりたい職業について調べている。
思考 判断 表現	学習の見通しを立て、座間市の施設や働く人について調べ、分かりやすく新聞にまとめている。	発表に向けて見通しを立て、福祉にまつわる体験について調べ、分かりやすくまとめている。	課題に対し、見通しを持って取り組み、自分たちにできることや必要なことに気づき、まとめている。	活動の見通しを立て、なりたい職業などについて調べ、分かりやすくまとめ、発表している。
主体的に 学習に取り 組む態度	座間の公共施設の役割や働く人たちの仕事について、進んで調べようとしている。	福祉・環境分野について、自分とのつながりを意識しながら、進んで調べようとしている。	“座間”の魅力や良さについて、進んで調べたり、考えたりと、取り組もうとしている。	自分の興味・関心のある職業について、自分の考え方と照らし合わせながら探求活動に進んで取り組もうとしている。

イ）「総合的な学習の時間・生活科　年間計画」の見直し・改善

◎２年生◎

単元の時期の見直し（社会情勢・行事などを考えて）



2021年度 単元配当一覧表
2年 生活
東書

月	単元名	時数	小単元のめあて
4	春だ 今日から 2年生	6	春の自然を観察し、冬にはなかった動植物と関わることで、四季の変化に気付くことができる。
			新1年生に学校のことを紹介するなどの活動を通して、自分たちの成長を実感することができる。
	大きくなあれ わたしの やさい	9	これから育てていく野菜を決め、適切に苗を植えたり、たねをまいたりすることができる。
			植物の変化や成長に関心をもち、植物を観察するとともに、適切な世話の仕方を調べて実行することができる。
			野菜を収穫して植物の生命力を実感し、自分で野菜を育てることができたという充実感をもつことができる。
			育てた植物を振り返り、植物が生きていることや、適切に世話ができた自分たちの成長に気付くことができる。
5	どきどき わくわく まちたんけん	9	自分のお気に入りの場所や興味のある場所などを友達と紹介し合い、身近な地域に関心をもつことができる。
			探検に行きたい場所を話し合い、場所や順番、安全に探検するためのルールなどを決めることができる。
			探検に出かけ、友達と協力して地域の場所を調べたりしながら、自分と地域との関わりを広げることができる。
			探検で見付けた場所やものなどを伝え合う活動を通して、自分たちと地域との関わりに気付くことができる。
6	生きもの なかよし 大作せん	12	身の回りで生き物がいそうな場所について話し合い、安全に気を付けて生き物を探しに行くことができる。
			生き物のいる場所や餌などを考えて採集に行く計画を立て、安全に気を付けて生き物を採集することができる。
			飼い方を調べて飼育する中で、生き物が生命をもっていることを実感し、生き物を大切にすることができる。
			生き物の飼育を振り返り、生き物のことを考えて世話をすることができた自分の成長に気付くことができる。
7	うごく うごく わたしの おもちゃ	12	動くおもちゃに関心をもち、動く仕組みを考えて、身近なものを使って自分でおもちゃをつくることができる。
			つくったおもちゃで遊び、友達と工夫を教え合ったりしながら、よりよく動くように改良することができる。
			つくったおもちゃでみんなで遊び、工夫して楽しく遊ぶことができる自分たちのよさに気付くことができる。
9	みんなで つかう まちの しせつ	6	図書館はさまざまな人が使う場所であることに気付き、安全に気を付けて正しく利用することができる。
			図書館にはみんなが気持ちよく利用できるための様々な工夫があることに気付くことができる。
10	もっと なかよし まちたんけん	12	これまでに行った場所の中から、もう一度行きたい場所を決めて、探検の準備をすることができる。
			地域に出かけ、そこで生活する人や働く人と関わる中で、その人たちの思いや工夫に気付くことができる。
			地域の人々が自分たちの生活に関わっていることに気付き、親しみと愛着をもつことができる。
			活動を振り返り、自分たちの地域には素敵な人や場所があることを実感し、親しみと愛着をもつことができる。
11	つたわる 広がる わたしの 生活	12	まち探検を振り返り、心に残った出来事の中から、伝えたいことや伝える相手を考えて選ぶことができる。
			伝える相手と伝えることを決め、選んだ表現の方法を選んで、作品にまとめることができる。
			作品をまとめる中で、もっと知りたいという思いをもち、地域の人々と関わる楽しさを実感することができる。
			作品を使って、心に残った出来事を身近な人々に伝えたり、感想を聞いたりすることができる。
12	あしたへ ジャンプ	27	これまでの2年間の学習や生活を振り返る中で、自分ができるようになったことなどに気付くことができる。
			身近な人々に、大きくなった自分のことをインタビューし、自分や友達の内面的な成長に気付くことができる。
			これまでに調べたことの中から、自分の成長について気付いたことを表現してまとめることができる。
			自分たちの成長を支えてくれた人に感謝を伝えるための会を開き、成長した姿を見てもらうことができる。
			3年生になったらやってみたいことを考え、これからの学習や生活への意欲や願いをもつことができる。

◎６年生◎

年間計画の改善（改善したテーマ・社会情勢に合わせて）

メインテーマ「共に生きる　この町で」
サブテーマ　感謝の気持ちを伝えよう

2021 年度 単元配当一覧表　「学年テーマ」

総合　メインテーマ【共に生きる　この町で】

サブテーマ
～感謝の気持ちを伝えよう～

月	単元名	時数	小単元のめあて	他教科との関連
4	発見このまち！ 座間 職業体験をしよう	20	自分たちの周りで働いている人々はどんな仕事をしているか調べよう	
5			働いている人から仕事についての話を聞こう	
			職業体験をしよう	
6	職業を調べよう	10	興味･関心のある職業について調べよう	
7	職業図鑑づくり			
	(1 学期の合計時数)	30		
9	日光について知ろう 自然･文化遺産	20	日光について調べよう	
10			活動計画を立てよう	
11			日光での体験を新聞にまとめて、発表しよう	
12				
	(2 学期の合計時数)	20		
1	感謝の気持ちを伝えよう 学習発表会に向けて	20	これまでの学習を振り返り、発表の準備をしよう	
2				
3			学んだこと、感動したことを発表をしよう	
	(3 学期の合計時数)	20		
	総合計時数	70		

改善(Action)

職業体験ではなく、職業講話に変更

他教科との関連を意識したカリキュラムに変更

メインテーマ「未来にジャンプ！！
思い描く自分の未来・今の私にできること」
サブテーマ　感謝の気持ちを伝えよう

２０２１年度 単元配当一覧表　「学年テーマ」

総合　メインテーマ【未来にジャンプ！！
思い描く自分の未来･今のわたしにできること】

サブテーマ～感謝の気持ちを伝えよう～

月	単元名	時数	小単元のめあて	他教科との関連
4		2	オリエンテーション 学習の見通しを持つ	
			働いている人から仕事についての話を聞き、自分の生き方･考え方を見つめよう	
5	職業を知ろう！！	4	相武台南口商店会「ミートショップニッパイ」戸津さん講話	
		4	KURATA ペッパー 倉田さん講話	
6		4	佃煮専門店「鮒佐」 大野さん講話	
		4	料理研究家　土井さん講話	
7		2	学習のまとめ	
	(1 学期の合計時数)	20		
9	職業を調べよう 職業図鑑づくり	30	テーマを決めよう	図工「夢」
10			学習計画を立てよう	
11			自分の興味･関心のある職業について調べ、職業図鑑にまとめよう	算数
12				国語
	(2 学期の合計時数)	30		
1	感謝の気持ちを伝えよう 学習発表会に向けて	20	これまでの学習を振り返り、発表の準備をしよう	道徳
2				
3			学んだこと、感動したことを発表をしよう	
	(3 学期の合計時数)	20		
	総合計時数	70		

◎５年生◎

年間計画の改善（より探求的な活動を目指して）

2020年度 単元配当一覧表　「学年テーマ」

総合　メインテーマ【発信！ふるさとの魅力】

サブテーマ～座間、ここに生きる～

月	単元名	時数	小単元のめあて	他教科との関連	予約
4					
5					
6	座間について	1	座間のよさについて考えよう		
	ひまわりについて学ぼう (調べ学習)	1	ひまわりの栽培方法を学ぼう		松橋さん
		1	ひまわりの種をまく		
		1	ひまわり畑の草取り		
7		4	ひまわりについて調べよう テーマ別（例：栽培方法　種を使った商品開発　ひまわりの種類　歴史）	社会	
	(1学期の合計時数)	8			
9 10	ひまわりについて学ぼう (調べ学習)	11	ひまわりについて調べよう テーマ別（例：栽培方法　種を使った商品開発　ひまわりの種類　歴史）		
		1	ひまわりの和紙の活用方法を考えよう	こころ･ときめき	松橋さん
11 12	パンジー栽培（11月～3月）	20	パンジーの育て方を学ぶ	こころ･ときめき	コトブキ花園
	(2学期の合計時数)	32			
1	パンジー栽培（11月～3月）	6	パンジーの植え替え	こころ･ときめき	コトブキ花園
2 3	1年間のまとめ	10	ひまわりについて調べたことをまとめる	社会	
	(3学期の合計時数)	16			
	総合計時数	56			

改善(Action)

座間市の花「ひまわり」をきっかけに、座間の魅力について考え、発信する活動へ

2021年度 単元配当一覧表　「学年テーマ」

総合　メインテーマ【発信！ふるさとの魅力】

サブテーマ～座間、ここに生きる～

月	単元名	時数	小単元のめあて	他教科との関連	予約
4	座間について	1	座間のよさについて考えよう		
	ひまわりについて学ぼう	2	ひまわりについて調べよう		
5		2	ひまわりの栽培方法を学ぼう		
		4	ひまわりの種をまく		あすなろ大学
6		4	ひまわり畑の草取り		あすなろ大学
7		4	ひまわりについて新聞にまとめよう	社会	
	(1学期の合計時数)	17			
9 10	ひまわりの活用方法	2	ひまわりの活用方法を考えよう		
		2	ひまわりの活用方法を知る		
		3	ひまわりの和紙の活用方法を考えよう	こころ･ときめき	松橋さん
11 12	パンジー栽培（11月～3月）	20	パンジーの育て方を学ぶ	こころ･ときめき	コトブキ花園
	(2学期の合計時数)	27			
1	パンジー栽培（11月～3月）	6	パンジーの植え替え	こころ･ときめき	コトブキ花園
2 3	1年間のまとめ	20	座間のパンフレット作り	社会	
	(3学期の合計時数)	26			
	総合計時数	70			

② 学期末毎の児童アンケート

学期末毎の児童アンケート　（資料Ａ・Ｂ）

対象：２・３・５年

方法：１学期・・・２．３年　質問紙→学習用端末によるアンケート

５年　学習用端末によるアンケート

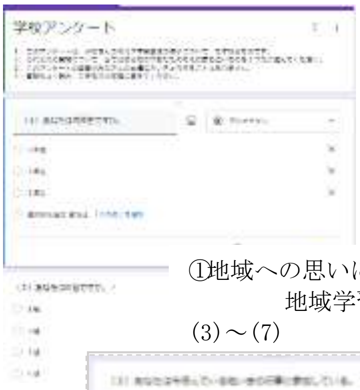
２学期・・・２．３．５年　学習用端末によるアンケート

質問内容：①地域への思いに関すること・地域学習に関すること

②話す・聞く・学び合い・書くに関すること

③生活科・総合的な学習の時間に関すること

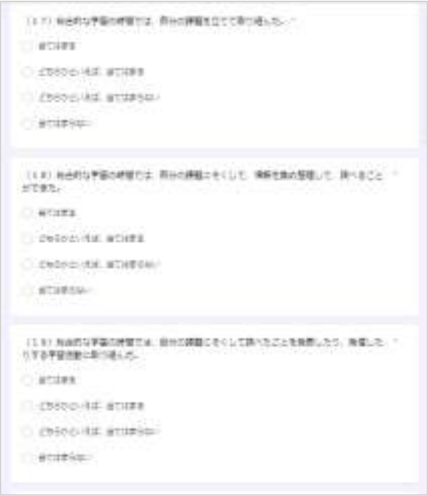
資料Ａ　児童が負担なくアンケートに答えられるよう学習用端末を利用した）



①地域への思いに関すること・地域学習に関すること
(3)～(7)

②話す・聞く・学び合い・書くに関すること
(8)～(16)

③生活科・総合的な学習の時間に関すること
(17)～(20)



資料Ｂ　質問紙によるアンケート（学習用端末が導入されたばかりだったので、２・３年生は１学期、質問紙によるアンケートを行った）

③ 教科年間計画を一覧できる表の作成

教科等年間計画一覧表の作成（巻末資料②）

対象：全学年（特支級除く）

方法：文渓堂「てんまる」を使用し、学年毎に各教科年間計画が時系列で一覧できる表を作成
　　単元時数もわかるように作成

④ 教科等年間計画一覧表の見直し

先生方にアンケートの分析を示し、年間計画の見直しをしてもらった。

対象：全学年

時期と方法：ア．夏休み・・・共通記号を決め、手書きで表に直接書きこみ。
　　　　　　イ．年度末・・・夏休み同様共通記号を使用し、直接書き込み。
　　　　　　　　　　　　　　付箋を利用。

ア．夏休み（アンケート分析は学習用端末でアンケートを行った５年生のみ示した）

《５年生に示した分析》

地域学習に関するもの

各学年、概ね地域学習を肯定的に捉え、成果があると感じている児童が多い。特に１学期に、総合や社会で地域学習を取り入れる機会が多かった３年生に次の項目で、顕著に肯定的に捉える児童が多い結果がでている。

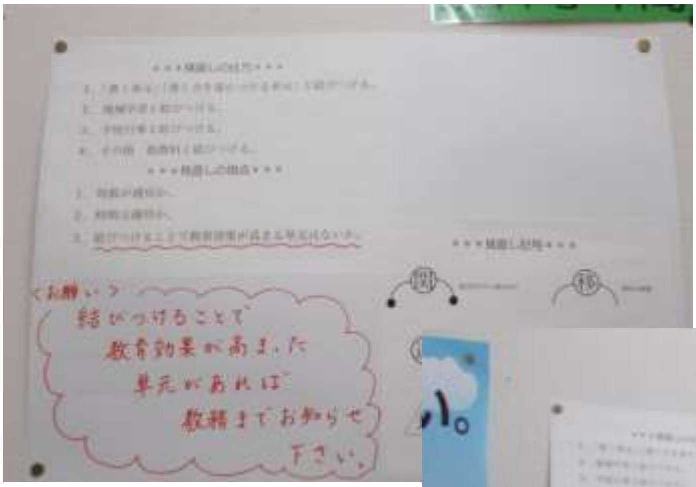
（４）あなたは、地域や社会をよくするために何をしたらよいかを考えることはありますか。
（５）あなたは、地域の人から話を聞いたり、関わったりする学習を進んで行おうと思いますか。
（６）あなたは、地域の人から話を聞いたり、関わったりする学習を通して、できるようになった、わかるようになったということはありますか。
（７）あなたは、地域の人から話を聞いたり、かかわったりする学習を行うと自分の考えが広がったり、よりよくなったりすると思いますか。

また、（７）の質問で「思う、どちらかといえば思う」と答えた児童がどの学年も他の質問項目に比べて多いことから、地域の人とかかわることで、自分の考えが広がったりよりよくなったりすると今までの経験上感じている児童が多いと思われる。そのため、地域の人とかかわりを取り入れた授業計画の工夫をはかり、児童たちがより進んで地域学習に取り組めるよう、地域学習の取り組み方の工夫も必要であると考えられる。この結果をふまえ、今後できる範囲で地域学習を取り入れていくこと、そして、それを学びによりつなげるために、学校でねらうその学習の教育的意義を地域・社会の方と共有することが大切であると考える。

書く学習に関すもの

結果を総合的に見ると５年生は、校内研究で取り組んできた特に「きく・話す」については、自信をもって学習に取り組んでいる様子が伺える。それに比べると、やや書く活動に自信のない児童が多い。また、グラフや表を使って書くことに自信のない様子が見られる。ただし、教え合う活動を通して、自分の考えの高まりや気づきを書くことができるようになったと感じている児童が比較的多いことから、教え合う活動を書く活動に取り入れていくことが有効だと考えられる。

《見直し、手書きで直接書き込んだ教科年間計画一覧表》



イ．年度末

《分析・アンケート結果資料》（資料①）

分析・アンケート結果資料を各先生方に配付し、来年度につながるよう教科年間計画一覧表の見直しを各学年で行ってもらった。

令和３年度　　教科等年間計画一覧表の見直しに向けて

相武台東小学校　教務部

⑤地域・家庭へ提示

職員室前の廊下掲示を利用。学校グランドデザインとともに、見直した教科等年間計画一覧表を見やすく手直ししたものを掲示した。地域学習を進めるためには、地域の方や保護者の方の理解も必要である。本校の学習や取り組みをより知ってもらうために、廊下に「学校グランドデザイン」「教科等年間計画一覧表」「学校行事」の様子「各種お便り」を並べて掲示した。

⑥授業実践

教科間をつないだ・地域学習を生かした取組

《３年生》社会科「まちの様子」「市の様子」総合的な学習の時間「地域について、座間」

社会科でまちの様子を見学する前に、総合的な学習の時間で「南口商店会活動や駅周辺の歴史について」商店街で店を営み、長年本校の学習に携わっていただいている地域の方に講話をしてもらった。

子どもたちは、メモを取りながら熱心に話を聞いていた。

社会科
まちの様子
市の様子

総合
地域について
座間

社会科「まちの様子」と総合的な学習の時間「発見！このまち、座間」とをつなげてまちの様子を見学した。本校学区には、駅前の店が多く交通が多い地域・南口商店街やコンビニがある地域があったり、畑が広がっている地域があったり、住宅街が広がっているが、その中に工場があったり、緑に恵まれた地域があったりする。このようにさまざまな特徴がある学区に気づくように計画を立てて見学を行い、新聞にまとめた。

探検の様子

社会科
まちの様子

総合
発見！
このまち、座間

新聞

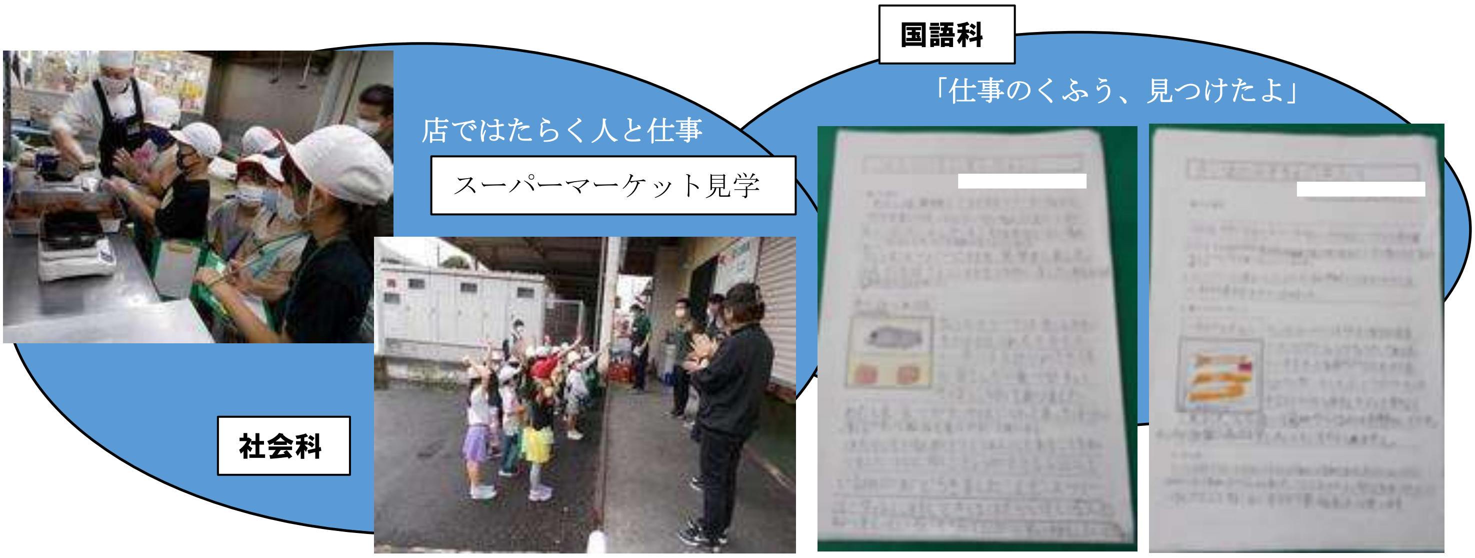
総合

国語科

社会科「市の様子」と総合的な学習の時間「座間市役所新聞を作ろう」をつなげて、市役所見学の計画を立てて、自分が市役所を見学して気づいたことや分かったことなどを新聞にまとめた。

《３年生》社会科「店ではたらく人のしごと」　　国語科「仕事のくふう、見つけたよ」

本校の校内研究では、書くことを通して考え、学び合う授業づくりに取り組んでいるが、「書く」には、伝えたいという思いが不可欠である。実際に児童がスーパーマーケットを見学し、体験し、教えてもらうことで、児童の自分が思ったこと・気づいたことなどを伝えたいという思いが育まれると考える。実際に、国語「仕事のくふう、見つけたよ」の単元で学んだ報告文の書き方を生かし、スーパーマーケット見学で自分が考えたことや思ったことを報告する文を意欲的に書く様子が見られた。

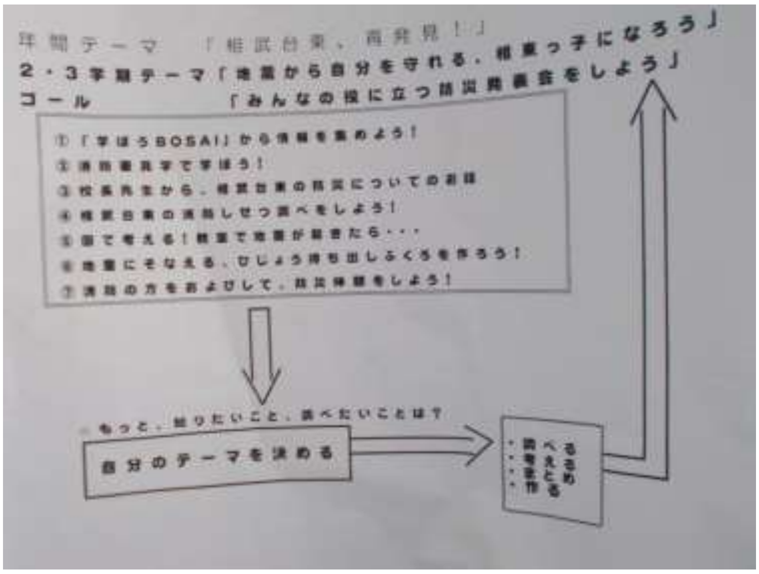


《３年生》社会科「消防の仕事」総合的な学習の時間「学校の防災」国語科「ローマ字」
情報教育との関連「スライド作り」国語科（書写）「しょうたい状を書こう」

３年生は、２・３学期の総合的な学習の時間で、「学校の防災」について調べ、まとめ、発表する取り組みを行っている。そこで、インターネットで調べたり、スライドにまとめたりする必要性があるため、情報教育の一環としてローマ字入力の練習をしたり、情報モラルを学んだり、スライドの作り方を学んだりした。これは、国語科「ローマ字」学習とつながりがもてるよう計画の調整も必要であった。また、社会科「消防の仕事」では、消防署見学にも行っており、総合的な学習の時間と関連づけるために見学の実施時期の調整も必要であった。このように、さまざまな教科や学習と関連付けて学習を進めるにあたって一覧表を活用してもらいたいと思った。

今回３年生は、これらを有効的に関連付け、総合的な学習の時間の「学校の防災」の発表では、児童が自信をもって自分達が調べ、まとめたものを堂々と発表していた。また、この発表会を授業参観で行うはずであったが、新型コロナウィルス感染症の広がりに伴い、残念ながら授業参観を中止せざる得なかった。そこで、発表会を先生方に見てもらえるよう書写「しょうたい状を書こう」とつなげ、丁寧に招待状を書く取り組みも行った。本来ならば、保護者の方々に招待状を書きたかったそうだ。招待状には、自分

達が調べた内容なども盛り込んであり、自分達の発表を見てもらいたいという思いが丁寧に書かれていた。そして、発表の様子を担任に撮影してもらい、家庭には、学習用端末を持ち帰り、その撮影動画を見ていただいた。



消防署見学

校長先生による学校の防災への取り組みについての講話

社会科

火事からまちを守る

総合

学校の防災

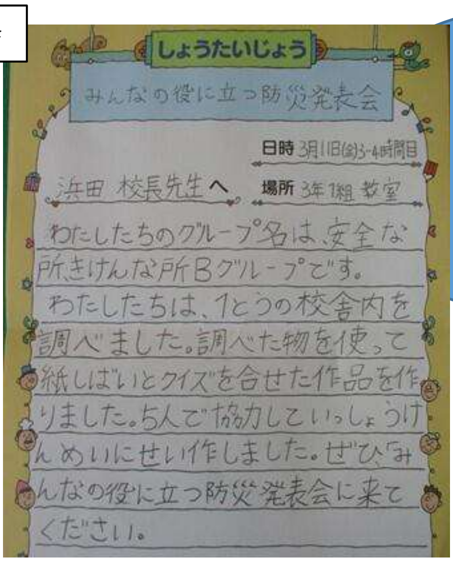
発信！！

新聞

社会科

国語科

防災発表会


しょうたいじょう

みんなの役に立つ防災発表会

日時 3月11日(金)3・4時間目

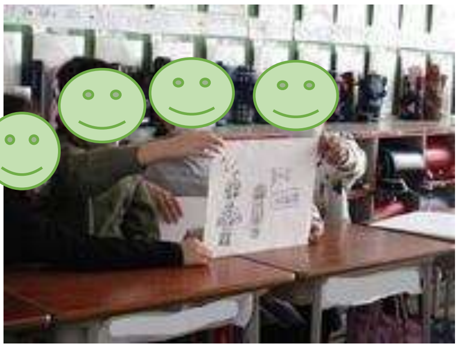
浜田 校長先生へ

場所 3年1組 教室

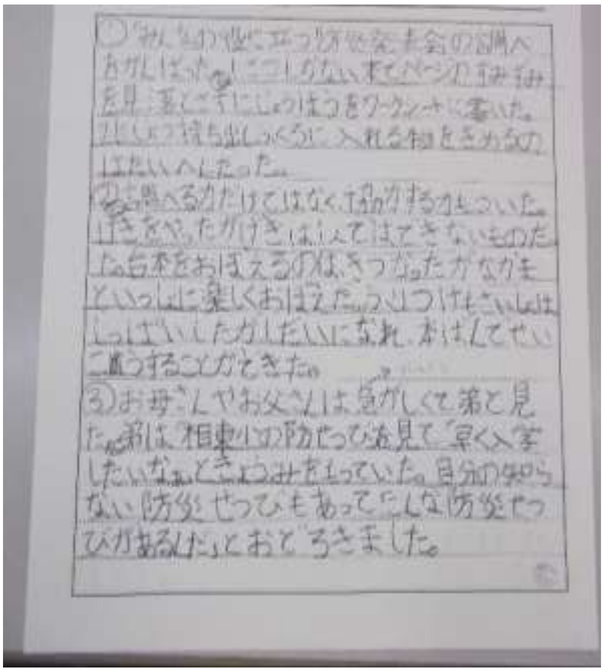
わたしたちのグループ名は安全な所きけんな所Bグループです。わたしたちは、1とうの校舎内を調べました。調べた物を使って紙しばいとクイズを合せた作品を作りました。5人で協力していっしょうけんめいにせい作しました。ぜひ「みんなの役に立つ防災発表会」に来てください。

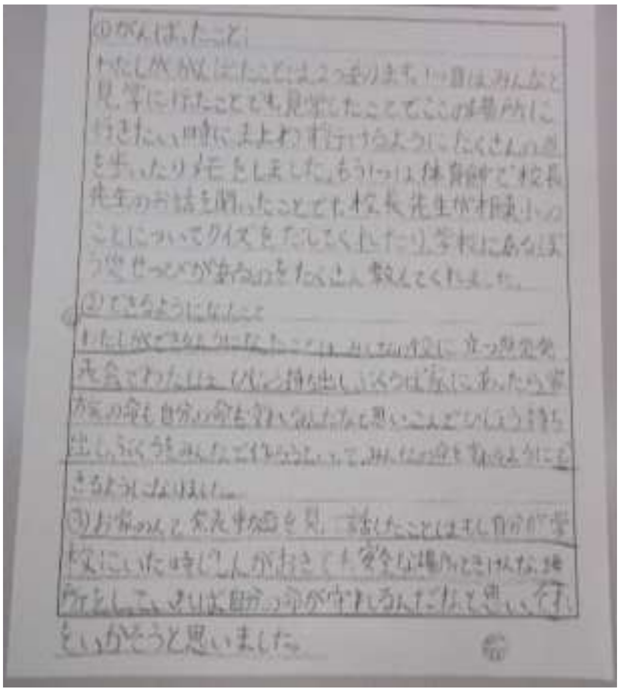
書写

しょうたい
状を書こう



ふりかえり


①「みんなの役に立つ防災発表会の調べ」がんばった。[illegible]ページのすみずみを見落とさずにじょうほうをワークシートに書いた。ひじょう持ち出しぶくろに入れる物をきめるのはたいへんだった。
②調べるだけではなく、協力する力もついた。けんかをやったけどけんかはしてはできないものだ。[illegible]台本をおぼえるのはきつかったけどなかまといっしょに楽しくおぼえた。[illegible]
③お母さんやお父さんは忙しくて弟と見た。弟は「相東小の防災せつびを見て早く入学したいなあ」と[illegible]もっていた。自分の知らない防災せつびもあって「こんな防災せつびがあるんだ」とおどろきました。


①がんばったこと
わたしががんばったことは2つあります。1つ目はみんなと見学に行ったことです。見学したことでここの場所に行きたい時にまよわず行けるようにたくさんの道を歩いたりメモをしました。もう1つは体育館で校長先生のお話を聞いたことです。校長先生が相東小のことについてクイズを出してくれたり学校にある防災せつびがある場所をたくさん教えてくれました。
②できるようになったこと
わたしができるようになったことは、みんなの役に立つ防災発表会でわたしは、ひじょう持ち出しぶくろは家にあったら家族の命も自分の命も守れるんだなと思いこんどひじょう持ち出しぶくろをみんなで[illegible]みんなの命を守るようにできるようになりました。
③お家の人と発表会を見て話したことは、もし自分が学校にいた時じしんがおきても安全な場所ときけんな場所を知っていれば自分の命が守れるんだなと思い、[illegible]いかそうと思いました。

この児童は、「調べるだけではなく、協力する力もついた。」と述べている。

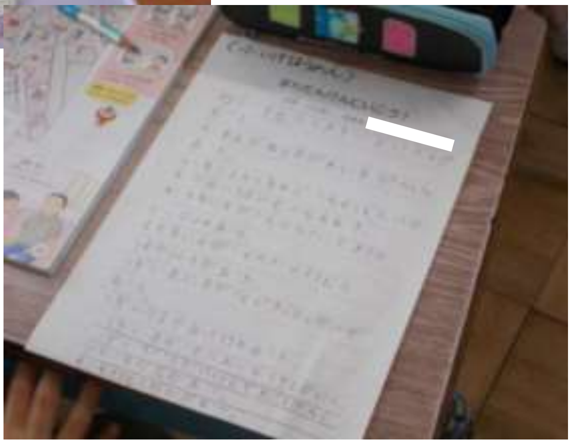
この児童は、防災について学んだことで、非常持ち出し袋を家族に作ろうと自ら提案し、実現させている。

社会情勢・行事に関連して計画を修正したことで実践できた取組

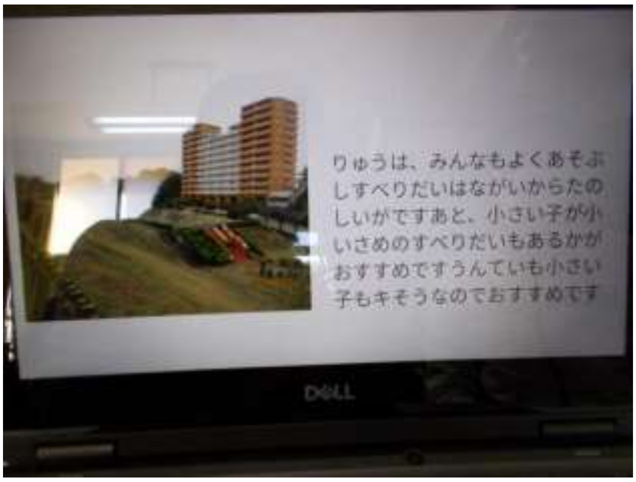
《２年生》

生活科「どきどき　わくわく　まちたんけん」

１学期は感染症が広がった時期であり、運動会の練習時期と重なったため、２学期に実施するよう計画したことで、実践することができた。学区のさまざまな地域の特徴が分かるよう地域別に探険し、地図やスライドにまとめた。



発表のために児童が
学習用端末で作成したスライド



生活科「うごくうごく　わたしのおもちゃ」１年生との交流「おもちゃランドをひらこう」

１学期は、「春だ 今日から２年生」の時間を充分にとり、自分たちの成長を充分感じられるよう学校たんけんを大事にした計画を立てた。また、１学期は、運動会の練習時期であるため、無理なく効果的に実施できるよう、この単元を２学期に実施するよう計画した。２学期初旬に感染症が広がり実施が危ぶまれたが、感染症対策を工夫して、グループで協力しておもちゃを作ることができた。また、１年生を招待して体育館で「おもちゃランド」を実施することができた。

《６年生》総合的な学習の時間

「未来にジャンプ！！思い描く自分の未来・今のわたしにできること」

長年、地域学習の一環として職業体験を取り入れた年間計画を立てていたが、令和２年度新型コロナ感染症の広がりにより未実施となった。昨年度は新型コロナウィルス感染対策を考え、年間計画全体を見直したことで、自分の未来について主体的に考える教育効果の高い実践を行うことができた。

職業講話

「Ｒｏａｄ　ｔｏ　Ｄｒｅａｍ」自分の今すべきこと・未来の自分について考え、パンフレットにまとめた

情報教育との関連付け、学び合いにつながった取り組み

学習用端末が一人１台配付されたことで、さまざまな学習単元などにおいて情報教育と結びつけ、学び合いにつながった取り組みを行うことができた。これらの実践以外でも社会科の調べ学習まとめをスライドで発表したり、オンラインで異年齢が関わる行事を行ったりなどすることができた。年度末の教科年間計画一覧表の見直しでは、情報教育も効果的に学習に取り入れられるように付け加えた。

《２年生》

生活科「大きくなあれ　わたしのやさい」情報「写真撮影」

学習用端末を使用してそれぞれが撮影した野菜の写真から、細部を確認し観察記録を書いた。また、その撮影した写真を共有することができた。

体育「とび箱あそび」情報「動画撮影」

学習用端末で跳び方を学んだり、撮影して、自分の跳び方を確認したりして、学び合った。

地域の方とのかかわり合いを効果的に生かした取り組み

《５年生》

総合的な学習の時間「座間の魅力」（地域学習）情報「スライド作り」

地域の方に、座間市の花「ひまわり」について講話をしていただきました。

また、地域の方に協力していただき、ひまわり畑に種植えもしました。夏には草取りも行いました。これらをきっかけに、座間の魅力について調べ学習を進めました。

地域の方の講話

地域の方に教わりながらひまわりの種植え

地域の方とひまわりの草取り

ひまわりの活用法を考えよう

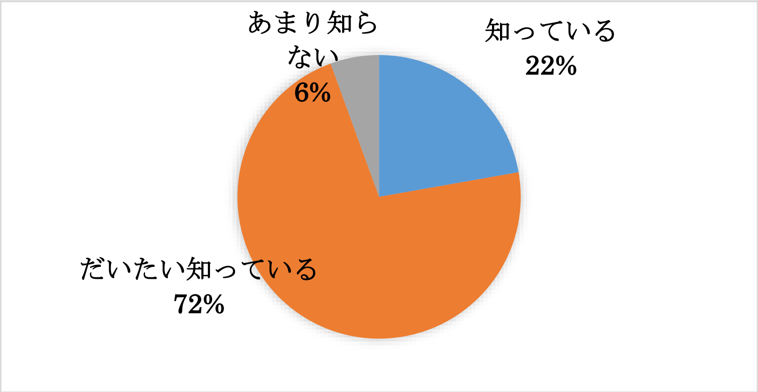
座間の魅力を考えよう！

最後に、調べたことをスライドにまとめ、保護者の方に見てもらいました。

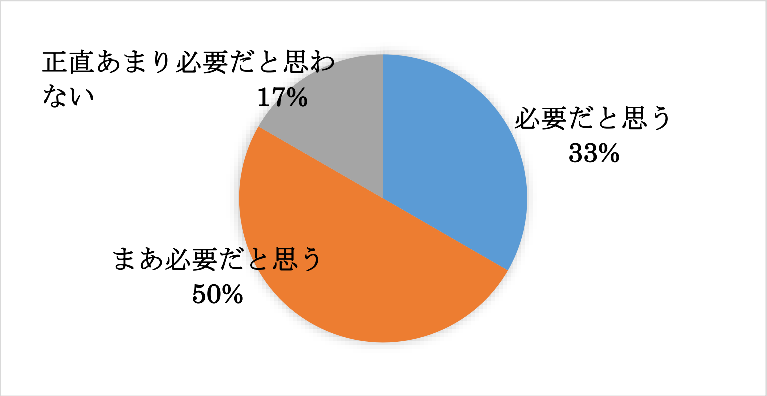
Ⅳ研究のまとめ

教員のアンケートより

1．学習指導要領の改訂の基本方針に、「各学校のカリキュラム・マネジメントの推進」が示されていることを知っている。



２．教育効果を高めるために、カリキュラム・マネジメントの必要性についてどう思いますか。



３．１学期に「総合的な学習の時間」の年間計画・全体計画「生活科」の年間計画の見直し、夏休みと学年末に「教科等年間計画一覧表」の見直しを行っていただきましたが、良かった点や改善点など感想を書いてください。

・どの教科と関連できるか確認できるのは良いと思った。学年で話し合い記入するのに時間がかかるので、ふだんの放課後の時間に授業について話し合う時間を造ってもらうと、内容も具体的に決められると思う。
・学年が始まる４月中に、新学年担任で話を早急に行い、１年の計画を立てると良いと思った。
・次年度につなげるために必要だと思う。
・改めてさまざまな学習がつながっていることが分かった。
・一からどの教科と単元の内容が関連づけているか確認しながら考えられたので、横断的に考えられたり、見通しを立てたりしやすかった。
・各教科の連携が見やすく、来年度の指導に役立てられると思う。
・つながっている教科が事前に分かり、意識して授業をすることができた。
・年間計画を見直したことで、教科ごとの横断的な見方ができたと思う。他教科と意識して見通しを持った指導ができたように感じた。
・見通しを持って取り組むよう意識することができ、他教科で学習を深めたり、広げたりすることにつながった。
・カリキュラム・マネジメントの視点から複数の教科を横断的に教科指導できることを見直せてよかった。
・学習内容の精選につながった。見通しを持って指導にあたることができた。
・適宜見直しをすることでよりよいカリキュラムになるので良い機会となった。
・一覧表を学年で見直すことで、多教科にまたぐ指導や関連を確認することができ非常に良かった。
・年度の初めに「教科等年間計画一覧表」を学年で確認し、意識した指導ができるとよい。
・職員一人一人が系統的連続的な学びを意識できた点は良かったと思う。

1 研究の成果

①児童のアンケート結果から

・２年生の地域学習のアンケート結果では、１学期より２学期の方が、地域の人から話を聞いたり、かかわったりする学習に対して肯定的に捉える児童が増えていた。これは、２年生という直接体験が大切な発達段階を踏まえ、２学期の年間計画を見直し、新型コロナ感染症が広がった時期をずらし、計画的に町探検など直接地域とかかわる学習を組み込み、ねらいをはっきりさせ取り組んだ成果と考えられる。
・３年生のアンケート結果では、「書く」に関連するアンケートで１学期より２学期の方が特に伸びが見られた。３年生では、年間を通して、社会科・国語科・「総合」を計画的につなぎ、国語科で学んだ表現を繰り返し活用する場を計画的に設定してきた。また、地域とのかかわり合いや体験を生かした授業を行うよう計画してきた。これらの取り組みによる成果が、アンケート結果に表れたと考えられる。
・５年生は、「総合的な学習の時間」に関連するアンケート結果から、１学期より２学期の方が主体的態度に関する項目において、「当てはまる」と答えた児童が増えた。これは、１学期末から夏休みにかけて「総合」の計画を練り直し、ねらいを意識させて２学期取り組むようになった成果といえる。

②その他

・最初に「総合的な学習の時間」「生活科」の全体計画や年間計画の見直しをしてもらったことで、ねらいや見通しを持って、学習を進めるきっかけを先生たちに持ってもらうことができた。
・コロナ禍ではあったが、一人一台の学習用端末の導入時期と重なり、それを使用し、工夫してかかわり合いや学び合いの授業を行うことができた。IC 化を学び合いに生かすことができたのは、大きな発見であった。
・教科横断的な視点をもった指導の意識づけや見通しを持った学習計画につながったという意見が多くあった。今年度見直しを行った教科等年間計画一覧表を年度初めに示し、見通しを持った年間計画作成ができるようにしていきたい。
・１年生は、特に「書く」指導において、教科内の単元を結び付けたり、教科間をつないだりし、授業において、学び合う場面を意識的に入れることによって効果的に書く力を高めることができた。
・２年生は、地域を生かした学習や異年齢とのかかわり合い、学習用端末の有効利用による学び合う学習活動ができた。
・３年生は、多くの教科と関連づけて、地域とのかかわり合いや体験を生かした授業を行うことができ、児童の自己有能感を高める学習ができた。
・４年生は、来年度の総合的な学習の時間のテーマを考え直すきっかけができ、令和４年度は、水をテーマにし、地域性を生かした学習計画をたてることができた。
・５年生は、年間計画の見直しをきっかけに、総合的な学習の時間による学びを地域の方とかかわり合う体験活動から探求的な学習に発展させることができた。
・６年生の総合的な学習の時間では、職業体験はできなかったが、社会の方を招いての職業講話から、児童の主体的な学びに発展させことができた。

2 今後の課題

・教員のアンケートからも見て取れるように、今年度はカリキュラム・マネジメントの一歩目と言える。継続することで、カリキュラム・マネジメントの良さを生かすことができると考える。今後も PDCA サイクルの具現化に取り組んでいきたい。
・本校の地域性を生かした学び合い・かかわり合いのある学習活動と学習のねらいを結びつけた学びの実現を図っていきたい。今年度から本格的に始まるコミュニティ・スクール（学校運営協議会）も生かして、今後模索していく必要がある。
・多忙な教員の状況から、カリキュラム・マネジメントを行う時間の確保は今後の課題である。

参考資料　「てんまる」文溪堂
「カリキュラムマネジメント入門」田村 学編著　東洋館出版社

教科等年間計画一覧表